

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

石油
石炭
畧
説
全

70
1
2
3
4
5
6
7
8
9
80

經濟學部
研究室
57
1574

東大
3
15

經濟學部
新刊
5
1584

石油
石炭

田畧

説

全



40157

石油海書上

海産石油の産地と石油の用途



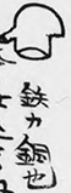
一海産石油の産地は、日本列島の各地方に分布し、そのうち、
 北海道の釧路、青森の三戸、岩手の大畑、山形の大曲、秋田の
 大館、宮城の涌谷、福島の大塚、茨城の常陸、栃木の宇都宮、
 群馬の桐生、埼玉の蕨、千葉の船橋、東京の品川、神奈川の
 横浜、静岡の浜松、愛知の豊田、岐阜の岐阜、長野の松本、
 新潟の長岡、富山の富山、石川の金沢、福井の敦賀、滋賀の
 彦根、京都の宇治、奈良の橿原、和歌山の和歌山、徳島の
 高松、香川の高松、愛媛の松山、高知の高知、福岡の福岡、
 佐賀の佐賀、大分の大分、熊本の熊本、鹿児島の大隅、
 沖縄の那覇、などである。

一石油の用途は、主に燃料として用いられ、そのほか、
 化学工業の原料として用いられる。

一石油の産地は、日本列島の各地方に分布し、そのうち、
 北海道の釧路、青森の三戸、岩手の大畑、山形の大曲、秋田の
 大館、宮城の涌谷、福島の大塚、茨城の常陸、栃木の宇都宮、
 群馬の桐生、埼玉の蕨、千葉の船橋、東京の品川、神奈川の
 横浜、静岡の浜松、愛知の豊田、岐阜の岐阜、長野の松本、
 新潟の長岡、富山の富山、石川の金沢、福井の敦賀、滋賀の
 彦根、京都の宇治、奈良の橿原、和歌山の和歌山、徳島の
 高松、香川の高松、愛媛の松山、高知の高知、福岡の福岡、
 佐賀の佐賀、大分の大分、熊本の熊本、鹿児島の大隅、
 沖縄の那覇、などである。

一、同志三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、
一、同、志、三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、

一、同、志、三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、
一、同、志、三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、



一、同、志、三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、
一、同、志、三、及、同、時、中、製、造、開、製、有、三、部、一、上、下、場、え、れ、月、の、処、夫、の、所、と、三、倍、
来、任、今、今、と、大、の、中、の、り、
一、製、造、は、ち、茶、葉、の、儀、と、發、三、尺、の、際、茶、を、行、う、子、其、内、三、本、を、入、る、う、五、六、斗、全、草、
半、の、を、ま、る、三、四、斗、入、入、と、上、上、茶、を、發、丹、后、の、桶、を、丈、式、尺、在、の、部、一、三、斗、中、
上、父、茶、と、稱、入、三、斗、人、

茶葉の類

茶葉の類

草生木出敷中

石粘油

柏生標

一草生木油 三拾三石九斗八升

久保郡蓮寺の田買入屋の拾々村草生木出敷書の上

同 拾三石二斗二升

蓮寺の田

同 拾三石二斗二升

大嶺の田

同 拾三石二斗二升

同 蓮寺の田

同 拾三石二斗二升

栗澤の田

同 拾三石二斗二升

云々の田

同 拾三石二斗二升

四ノ屋村

同 拾三石二斗二升

大野の田

同 拾三石二斗二升

澤田村

同 拾三石二斗二升

澤田村

同 拾三石二斗二升

澤田村

又草生木油 三石七斗七升

右村々草生木油 拾三石七斗七升 増減の事 三石七斗七升 以上

以爲五年

今申九月廿五

太村々代兼

言者寺の田

池田 九平

蓮寺の田

鈴木 信平

柏生縣

御廳

石油と海書上

本庄の石油と海書上の関係

三浦郡若布村

一右村地内山を谷と産草生あり儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

一井戸堀り此儀の儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

一此儀の儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

右村より先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

三浦郡若布村

三浦郡若布村

三浦郡若布村

三浦郡若布村

石油と海書上

海と産草生ありの儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

三浦郡若布村

一右村地内産草生ありの儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

一井戸堀り此儀の儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

一此儀の儀と先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

右村より先年村目論むるに終つて果昔年
夏の南又於金の月朔日天より大又此儀の生年月十日の朝は儀
より夏初より日同敷三石程ありの儀と此儀の生年月十日の朝は儀
宛あり

越後国村宿寺村石脂石
越後国村日本村石脂石

石島 石脂

越後国村日本村、越後国村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
越後国村日本村、越後国村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
越後国村日本村、越後国村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也

一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也
一 村日本村、石脂石、初ニテ不思議ノ事也

妙法寺村 越後国村宿寺村宿寺村

往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル
往古ヨリ臭油涌ルコトヲ於今修るリ但シ慶長年中、末ニ迄分涌ル

製造器械

除尼和久太

弘化年中造而形工夫佳の事於今も製造造作也
製造工夫器械を採らる

一生油貳斗八升

製油

上等一升五合
下等九升三合

大に通の大元如斯く造る也

長運表式

根取八五印

所造器年製造器械の工夫佳の事於今も採らる
減至て徳用と看すや
一生油五斗入 三斗三升

又貳百五斗入式斗三升

大元高橋器械と云左に通但高橋器械は西作器無

妙法寺油田

妙法寺上等

又高橋器械の採らる事の事日一升又貳斗三升先製器

多春ふ必得真油の事先の芦と穂と結て油を分けし油を分斗を先製器
用す

大元器械の採らる事の事

壬申 右

矢島 右 飯

石腦油説 長運表

一制器油 三拾四石六升四合

以譯大元、出前

拾三駄半

但一櫛二行三斗三四升入

壬申 五月廿九

産物と地名

信濃水内郡

阿古直光寺村 タ・リ村

右重立候場町

佐久良村

米青ヨリ申四月
マテ 一石ある

田倉村
同 安曇郡
三津村
神代村

大白河村
高池村
切久保村
小泉村
下至阪村

一製酒百三拾石三斗五升
申百十五石ヨリ
大百廿九石ノ下
ノ高

丸歌大九之出前

四拾八歌

東京出前

成石三拾四石

拾二歌

成石八石六斗五升

甲辰駿河
上ノ下田
出前

引三拾二石六斗二升

自出店来利出前

代價付

一上等代價 銀拾五匁

一中等代價 同拾五匁

一下等代價 同八匁

一下々等代價 同五匁

但物價ノ相場ニ從ヒ候

向古真光寺村草生水垢出と子続

抑見斯水中ニ油騰シ臭有テ草生亦、氣有レテ知リサテ穿ッテヲ確メ
經西^ノ^ノ^ノニワク本ヲ入レ板ヲ挟ミ落キテ油ノ垢^ノル^ノ四五十向^ノモ及ニ聖石又トコ出ト号
ル物有リ垢破リ其石脂ノ氣盛ニテ穿集^ノカ^ノ不能^ノハ^ノタ^ノラ^ノテ^ノ空^ノ氣^ノヲ^ノ入^ノレ^ノ垢
下^ノ離^ノテ^ノ井^ノ底^ノヨリ^ノ尺^ノ五^ノ寸^ノヨリ^ノ桶^ノ頬^ノヲ^ノ積^ノミ^ノ登^ノリ^ノ桶^ノ頬^ノノ^ノク^ノ木^ノノ^ノ向^ノニ^ノ板^ノ木^ノヲ^ノ詰^ノメ
桶^ノ頬^ノニ^ノ穴^ノヲ^ノ明^ノテ^ノ涌^ノ出^ノス^ノ其^ノ油^ノ五^ノ升^ノ斗^ノ又^ノ五^ノ石^ノ拾^ノ石^ノハ^ノモ^ノ有^ノテ^ノ多^ノ量^ノ一^ノ定^ノセ^ノズ^ノ
銅^ノ瓶^ノヲ^ノ下^ノテ^ノ汲^ノ揚^ノテ^ノ桶^ノへ^ノ溜^ノメ^ノ水^ノ又^ノ有^ノレ^ノハ^ノ外^ノ桶^ノへ^ノ移^ノシ^ノ水^ノヲ^ノ去^ノリ^ノ糞^ノ詰^ノミ^ノテ^ノ運^ノ送^ノス

明治五年甲午十月

石炭油会社

精製と方法

經貳尺^ノ之^ノ釜^ノ元^ノ油^ノ四^ノ斗^ノ五^ノ升^ノヲ^ノ入^ノ桐^ノ器^ノ械^ノヲ^ノ釜^ノ上^ノニ^ノ置^ノキ^ノ又^ノリ^ノエ^ノラ^ノ用^ノニ^ノ氣^ノノ^ノ減^ノテ^ノ
止^ノメ^ノ桐^ノ器^ノ上^ノノ^ノ水^ノ張^ノエ^ノ水^ノヲ^ノ入^ノレ^ノ底^ノ裏^ノ工^ノ炭^ノ火^ノヲ^ノ接^ノシ^ノ遂^ノニ^ノ釜^ノ油^ノ湯^ノ騰^ノ、^ノ氣^ノア^ノ
ル^ノニ^ノ從^ノテ^ノ蠟^ノ錫^ノス^ノ痛^ノ初^ノメ^ノニ^ノ悪^ノク^ノ汚^ノ物^ノヲ^ノ滴^ノ流^ノシ^ノ四^ノ序^ノ向^ノヲ^ノ過^ノキ^ノ火^ノ氣^ノ足^ノリ^ノ水^ノ
氣^ノ減^ノシ^ノ釜^ノ底^ノ和^ノス^ノル^ノニ^ノ從^ノテ^ノ清^ノ皎^ノ一^ノ吊^ノ油^ノ滴^ノ溜^ノス^ノル^ノニ^ノ六^ノ升^ノヨ^ノ時^ノヲ^ノ移^ノシ^ノテ^ノ
淺^ノ黄^ノ濃^ノヲ^ノ篩^ノ色^ノス^ノル^ノ次^ノ高^ノテ^ノ物^ノ滴^ノ溜^ノス^ノル^ノ又^ノ三^ノ升^ノヨ^ノ遂^ノ々^ノ滴^ノ減^ノス^ノル^ノニ^ノ從^ノテ^ノ火^ノ
ヲ^ノ去^ノリ^ノ器^ノ械^ノヲ^ノハ^ノッ^ノシ^ノ釜^ノヨリ^ノ固^ノ油^ノヲ^ノ汲^ノミ^ノ器^ノ械^ノヲ^ノ帚^ノ拭^ノシ^ノニ^ノ昼^ノ夜^ノニ^ノシ^ノテ^ノ一^ノ周^ノノ^ノ業^ノ
ヲ^ノ卒^ノフ

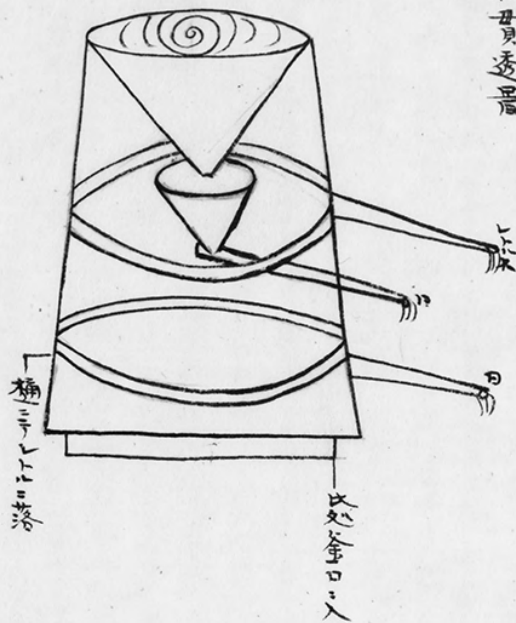
申十月

石炭油会社

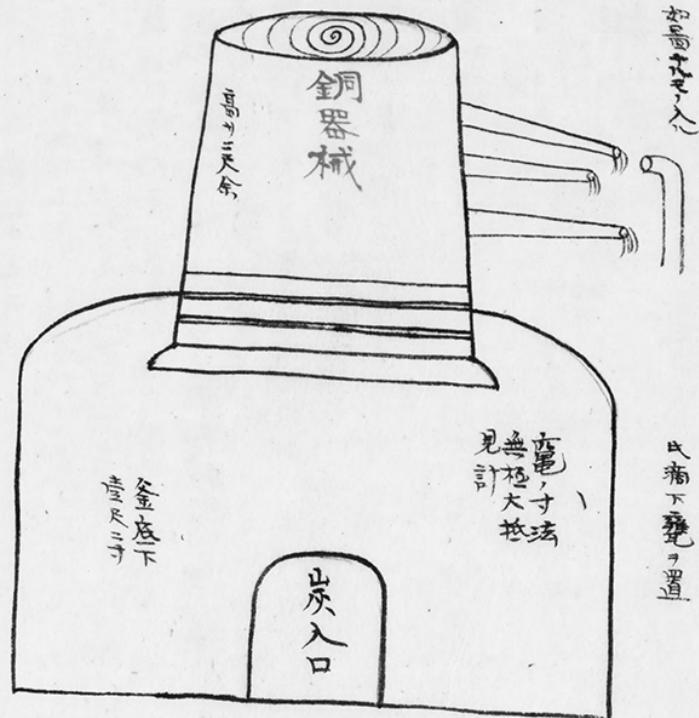
柳澤碌ヲ

銅器械母貝透音

水珍



如圖所示入



此桶下鑊ヲ置 見無極大按

日丹交冬冬之日丹考一多一、油入中の、その油、桶、六尺三寸、
 貯、之、文、五、尺、三、寸、八、寸、の、余、を、日、三、寸、三、寸、上、下、夕、金、タ、が、忍、り、桶、三、寸、八、寸、
 右、網、通、一、作、の、左、右、立、並、ひ、の、形、に、以、り、自、然、と、の、二、連、れ、油、の、面、
 浮、り、お、も、あ、り、カ、ク、マ、草、と、手、桶、を、持、持、之、付、持、二、寸、下、り、油、入、る、前、同、前、
 二、寸、厚、の、大、手、桶、之、内、へ、接、油、の、油、を、山、樽、か、桶、一、若、尾、極、目、本、新、田、迄、運、
 送、四、五、斗、入、粒、油、産、の、桶、上、打、以、油、の、塊、三、段、の、子、任、り、給、則、焚、用、於、半、
 中、の、扱、又、外、三、寸、付、油、一、儀、の、油、を、忍、り、葉、穂、を、干、先、へ、雜、付、油、を、揚、製、成、
 い、か、書、若、大、作、月、新、二、油、産、の、玄、白、と、以、之、葉、を、別、り、油、を、忍、り、之、油、
 り、二、寸、葉、を、染、付、一、以、油、と、中、の、
 右、御、尋、二、寸、重、者、の、油、を、製、油、式、升、れ、添、付、於、段、中、上、の、以、上、

并式拾三三藩原郡

- 極目本新田
- 三下次新田
- 右高村草葉油稼人
- 極目本新田及屋
- 塩谷村
- 高村茂雄

明治五年甲寅有言

新橋
御殿

- 右高村
- 右同新
- 同村
- 農
- 右高村草葉油稼人
- 極目本新田及屋
- 塩谷村
- 高村茂雄

炭礦畧説

新龍口水畧畧

石炭 畧説

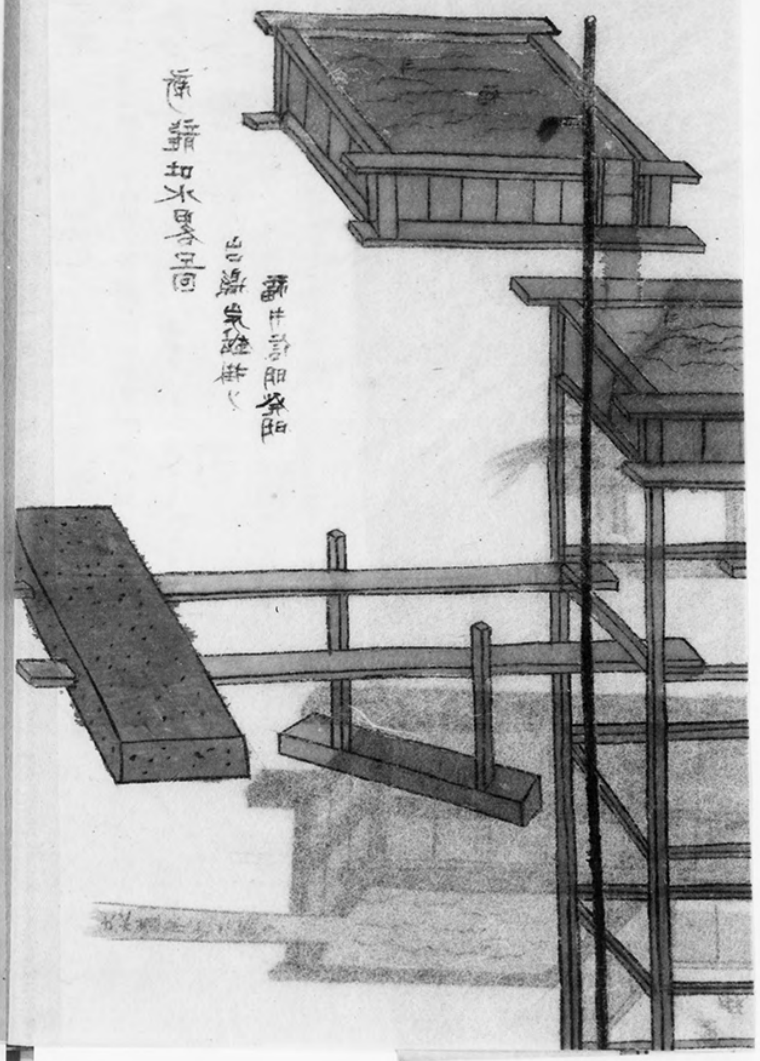
長門厚狹郡ノ石炭有保村ヨリ掘初メシ由年曆詳ナラズ主人柴薪ノ代リ
ニ用ニ来リシ一ノ年久シ産層ノ頃ヨリ漸々ノ産火ニ用ヒ安永以和ノ頃ヨリ塩産層
ニ用ヒニヨリ多ク掘おスノトナリ又初メノ程ハ容易キ所ヲ見立掘えシガ今ノ田畝
ノ下或ハ深層干為迄モ難キヲ厭ハス掘えル者用モ亦夥多ナリ
石炭ノ地ヲ赤ノ間地床浪辺ヨリ西ノ厚狹山川マデ北ノ船木ヲ限リ南ノ海底ニ至
ル広袤獲ニ百里ニ過ズ其中ノ中多ク赤ノ有保岸部ノ高泊須恵干潟ノ地
ナリ餘テ山皮脈乾ヨリ巽上ヨリ斷續重リマナリ大抵炭ノ所ニ面テ土質黃白或灰
色ニテ軟脆ノ最アリ主人從來ノ經驗ニテ土質ヲ見テ炭ノハ一ノ知シリ土地ノ海袋
一定ナラズト雖モ今時掘リ得ル坑ノ大抵ニ丈ヨリ八九丈ニ至ル也
坑ニテ内ノ釣井アリ斜ニ掘入ルヲ走リト云殘キノ別釣瓶貯キノ南響車天保四年
即チ是ノ創チ氏嘉ノ
製ニ今專ラニテ甲ユキニテハ取入ル也車ニ坐九人掛リ一晝夜交代ニテ十八人吊桶大

約水六七斗ヲ容ル汲上ル水ノ量數ハ坑ノ淺深お多クニヨリテ車數ヲ増減ス
去レモ未ダ至便ヲ書テカス故ニ去年英人モリスノ勸ニ從ヒ西洋製ホニプラ
モ購ヒ求メタレモ元來本郡ニ石炭ハ西洋及ヒ我九凡ハ磁ノ生産ト同シカラス炭
質薄クニテ炭脈連綿セサレハ大概一山九年乃至兩年ニテハ掘書テ「故」ホニプラ
用ハハ所謂牛ノ割鶏ノ數ニ較シ用ユベキ地ナシ元從者主人ノ所ニ遺漏測ルハ
カラサレモ是亦既ニモリスニ請ヒテ炭脈研究數回、カヲ見シ地中探針、術
ヲ施シ油サニ百尺余ニテマテモ試驗シタレモ遂ニ其方ヲ奏スルコトヲ得ス炭質
從テ、官買ニ於テモ頻年取ルハ、多クは未ダ十丈以下ノ界ハ、便器ヲ得ス今
茲炭磁掛リ官買福井信明辛未三月舟木郡御用子助出炭磁引除可也
今ノ本ニシテ田沼用製ノ法ヲ得巧ヲ發明ス即今總田ヲ移テ炭坑ノ夫ニテ未ダ産地ニ施スニ至ラス他日年功ニ及ハバ獨
リ炭磁ニ併スニ止ミラス都テ高燥渴水ノ地ニ施ス其至便疆リナク理ヲ推シ切ラ広ム
ルニ至ラバ後代ノ利益莫測ハハカラス
炭ノ掘方ハ先ツ坑底ノ敷炭ヲスリ夫ヨリ正目ニ幾前モ送テ入リ又板目ニ切スルナリ縱横
方算ノ針鐵ヲ以テ盛リ竹籃ニ入レ背負ヒおスナリ掘夫一人運下二人日懸ル九三四振十
ハ内外掘おス賃錢今時九振五廿又位ナレ掘夫ノ難易ニ因リテ差アリ掘場ノ所ノ出炭
段數ノ厚薄ニ因テ多少アリ有保ニテ、一反三歩ノ地ニテ三分一柱ニ幾シ並掘上ルハ出炭

一石炭貳拾万四千九百四拾六振余
 但明治元辰十月ヨリ同二巳八月マテ売拂右ノ通
 一同七拾五万九百振余
 但同二巳九月ヨリ同三年八月マテ同断
 一同七拾貳万六千三百八拾振余
 但同三年九月ヨリ同四年十月マテ同断
 一同貳拾九万四千七百四拾振余

石炭及石

- 船木部
- 須恵邨
 - 舟木邨
 - 有板邨
 - 吉田部
 - 山川邨
 - 美柳部
 - 善頰邨



藤井新田
 藤井新田
 藤井新田

但當五月ヨリ四月マテ同斷
ノ貳百四万七千九百六拾ニ振

但辰十一月ヨリ當申四月マテ四十三ヶ月ニ割一々年十一月分五拾七石振余ニ
相成候

一 金四万九千七拾兩余

但辰十月ヨリ當甲卯マテ赤井炭高貳分四釐七十九百六拾六振ノ代金拾七万五
千八百四拾兩余ヲ四拾三ヶ月ニ割一々年十一月分五拾七石振余ニ代價右ニ通

一 石炭産後ニ付

代錢五百四拾六文

但上中下取交坪ヨリ三道段右ニ通

石炭産後

一 上中蔵炭産後ニ付

代錢六百三十三文

一 中ノ中蔵同

代同五百三拾壹文

一 五段同

代同五百貳拾文

一 七甲同

代同五百五拾八文

一 七千刀同

代同三百六拾文

一 二重石同

代同六百三拾文

一 二重石同

代同五百拾三文

一 中場同

代同五百四拾文

一 入道石同

代同四百五文

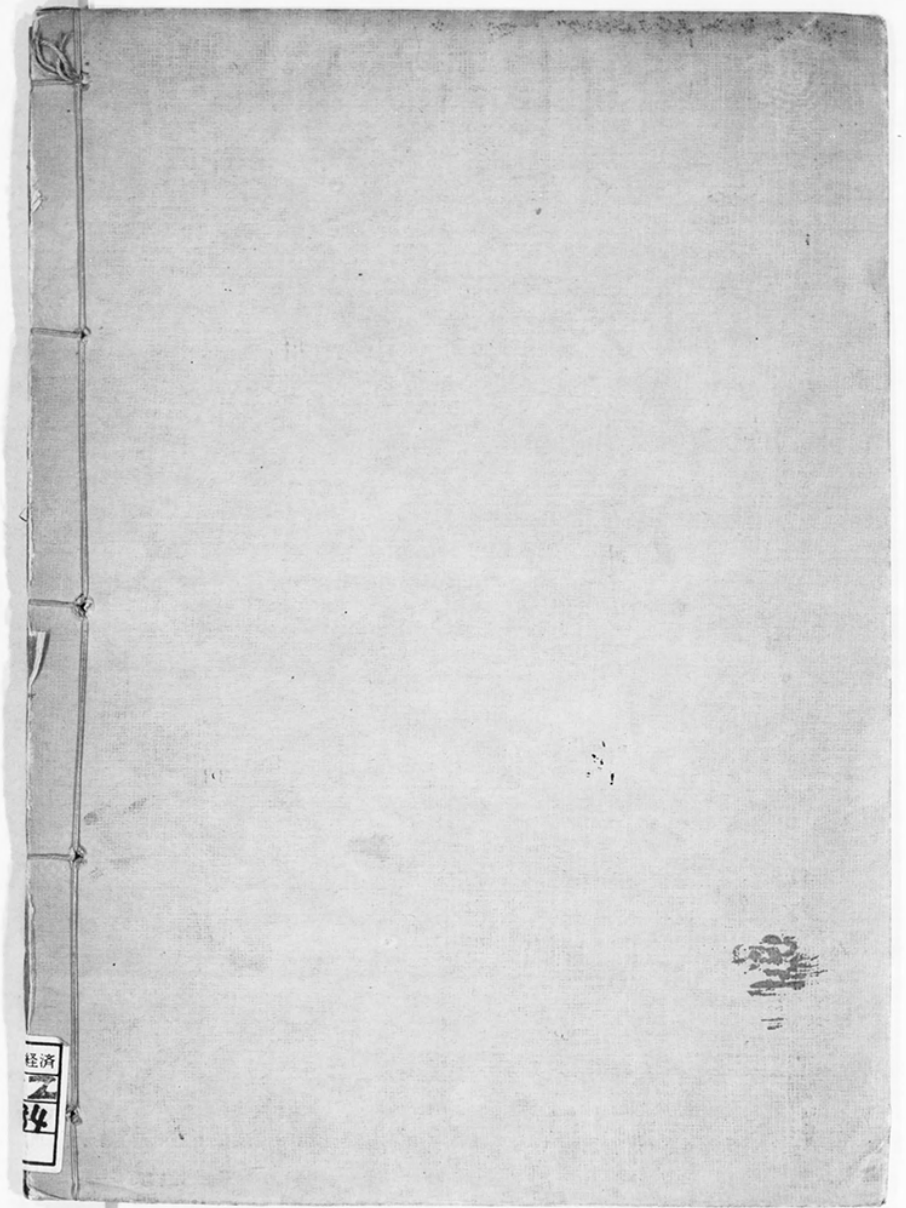
一 マシカ同

代同三百五拾三文

ISSEIDO
田中 製紙 工場

田中 製紙 工場
昭和 十 年 十 月 十 日
印

42



経済

4